

法人番号	131095
プロジェクト番号	S1591005

研究進捗状況報告書の概要

1 研究プロジェクト

学校法人名	立教学院	大学名	立教大学
研究プロジェクト名	ESD による地域創生の評価と ESD 地域創生拠点の形成に関する研究		
研究観点	研究拠点を形成する研究		

2 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

ESD(Education for Sustainable Development: 持続可能な開発のための教育)研究は、環境・経済・社会・文化のあらゆる領域をカバーする学際的研究であり、その成果は本研究プロジェクトの代表者が深く関わってきた「国連持続可能な開発のための教育(ESD)の10年」(2005～2014年)や、所長を務める「立教大学 ESD 研究所」の活動等によって、地域住民の学びやエンパワーメントを通じた人づくりによる地域づくりという形で広がりを見せてきた。しかし、ESD を通じた地域づくりについては、個々の先進事例はあるものの、理論化・体系化されておらず、全国への波及展開には至っていない。本研究プロジェクトでは、ESD による地域づくりの先進事例についての持続可能性指標を用いた評価と、ESD 地域創生拠点の形成を試みるアクションリサーチを通じて、新たな視点を加えた ESD 研究を発展させると共に、どの地域でもカスタマイズ可能な ESD 地域創生プログラムを提示し、活用を促すことを目的とする。本研究プロジェクトの意義は、少子化や過疎高齢化、原発事故以降のエネルギー等の国内問題や、気候変動による自然災害等の国際問題が同時進行している課題先進国である日本において、国際的に活躍できるグローバル人材の育成に寄与すると共に、「ESD 地域創生研究センター」の設置を通して地域における ESD 推進の基盤を形成することにある。

本研究プロジェクトでは、参加する研究者を、①ESD 地域創生拠点化チーム(アクションリサーチの対象地域を選定し、各地域のテーマに即した ESD 地域創生拠点を形成する)、②調査・評価チーム(調査・評価対象地域を選定し、持続可能性指標の視点から ESD による地域の持続可能性を評価する)の2チームに編成し、研究を実施する。

1年目は、全国の自治体を対象とした悉皆調査を行い、次年度以降の ESD 調査・評価ならびにアクションリサーチのための計画を作成する。併せて従来個別に行われてきた各地域における ESD に関するネットワークを本研究プロジェクトの計画に即して整備し、研究基盤を固める。また、北東アジア諸国や欧州諸国の ESD による地域創生の現状について、現地の研究協力者と共に調査を行う。2年目は、アクションリサーチの対象となる自治体及び調査・評価を行う対象地域を選定し、現地でのヒアリングと実態調査を行う。3年目は、現地における ESD 推進組織(行政や NGO/NPO など)との関係構築に配慮しながら、アクションリサーチ、調査・評価研究を進める。4年目は、ESD 地域創生拠点形成に向けた ESD 地域創生プログラムの策定を行うと共に「ESD 地域創生研究センター」を設置し、新しい持続可能性評価指標を完成させる。5年目は、ESD 地域創生プログラムを用いて、ESD 地域創生研究の理論化・体系化を進め、各地域における ESD 地域創生拠点形成のためのコンサルティング活動を開始する。また、書籍の刊行等を通じて、研究成果の社会還元を行う。

法人番号	131095
プロジェクト番号	S1591005

3 研究プロジェクトの進捗及び成果の概要

本研究プロジェクトは「ESD 地域創生拠点化チーム」と「調査・評価チーム」に分かれているが、定期的に 2 つのチームの合同研究会を開いて情報交換や討議を行い、成果を統合しながら、いずれも当初の計画に従って研究を実施している。

1 年目は、全国全ての自治体を対象とした悉皆調査を行うとともに、次年度以降に行われる ESD 調査・評価ならびに自治体におけるアクションリサーチのための計画を作成した。併せて、従来個別に行われてきた各地域における ESD に関するネットワークを本研究プロジェクトの計画に即して整備し、研究基盤を固めた。また、北東アジア諸国や欧州諸国における ESD による地域創生の現状について、現地の研究協力者と共に調査を行った。

2 年目は、アクションリサーチの対象となる自治体及び調査・評価を行う対象地域を選定し、現地でのヒアリングと実態調査を行った。その成果として、長崎県対馬市、北海道羅臼町、静岡県西伊豆市の 3 自治体と、本研究プロジェクトの母体である立教大学 ESD 研究所との間で「ESD 研究連携に関する覚書」を締結し、各自治体との連携事業を始動させた。また、ESD 地域創生研究センター準備室を立ち上げ、同センターの設置を予定している 4 年目に向けた体制の基盤形成に努めた。

3 年目は、本研究プロジェクトと各覚書締結自治体(新たに長野県飯田市を加えた計 4 自治体)における ESD 推進組織(行政や NGO/NPO など)との関係構築に配慮しながら、アクションリサーチ、調査・評価研究を進めた。また、北東アジアや南アジア、欧州の研究者を招聘して国際シンポジウムを開催し、日本と諸外国における ESD による地域創生に関わる課題の共通点と相違点を明確化し、共有することができた。

法人番号	131095
プロジェクト番号	S1591005

**平成27年度選定「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」
研究進捗状況報告書**

- 1 学校法人名 立教学院 2 大学名 立教大学
- 3 研究組織名 ESD 研究所
- 4 プロジェクト所在地 東京都豊島区西池袋 3-34-1
- 5 研究プロジェクト名 ESD による地域創生の評価と ESD 地域創生拠点の形成に関する研究
- 6 研究観点 研究拠点を形成する研究

7 研究代表者

研究代表者名	所属部局名	職名
阿部 治	社会学研究科	教授

- 8 プロジェクト参加研究者数 12 名

- 9 該当審査区分 理工・情報 生物・医歯 人文・社会

10 研究プロジェクトに参加する主な研究者

研究者名	所属・職名	プロジェクトでの研究課題	プロジェクトでの役割
阿部 治	社会学研究科・教授	ESD による地域創生の評価と ESD 地域創生拠点の形成に関する研究	①ESD 地域創生拠点化チーム、②調査・評価チームの責任者として本研究プロジェクト全体を統括する
野田 研一	名誉教授	ESD 地域創生拠点における、住民の地域環境意識形成に果たす場所論に関する研究	①ESD 地域創生拠点化チーム ESD 地域創生に果たす、住民意識を特に「場所意識」の視点から、概念化を図る
上田 信	文学研究科・教授	ESD 地域創生拠点における、外部組織の役割に関する研究	①ESD 地域創生拠点化チーム ESD 地域創生拠点化における外部組織（大学・NGO/NPO など）が果たす役割についてのアクションリサーチを行う
橋本 俊哉	観光学研究科・教授	ESD 地域創生拠点における、観光の果たす役割に関する研究	①ESD 地域創生拠点化チーム 交流人口の増大に伴う地域活性化と地域資源の掘り起こしを行う

法人番号	131095
プロジェクト番号	S1591005

大山 利男	経済学研究科・准教授	ESD 地域創生拠点における、第一次産業の果たす役割に関する研究	①ESD 地域創生拠点化チーム ESD 地域創生に果たす、第一次産業の役割の見える化、つなぐ化を行う。また、「②調査・評価チーム」との連携・調整役も担う
中西 紹一	専修大学ネットワーク情報学部・客員教授	ESD 地域創生に果たす、CSR/CSV に関する研究	①ESD 地域創生拠点化チーム ESD 地域創生に果たす、ESD 地域創生拠点支援企業ネットワークの構築を行う
川嶋 直	公益社団法人日本環境教育フォーラム・理事長	ESD 地域創生拠点における、自然学校の役割に関する研究	①ESD 地域創生拠点化チーム ESD 地域創生に果たす、自然学校ネットワークの構築
増田 直広	公益財団法人キープ協会・主席研究員	ESD 地域創生拠点における、自然学校による地域創生の可能性に関する研究	①ESD 地域創生拠点化チーム ESD 地域創生に果たす、自然学校による地域創生の可能性の模索
中口 毅博	芝浦工業大学システム工学部環境システム学科・教授	ESD 地域創生拠点における、持続可能性人材育成に関する研究	②調査・評価チーム 持続可能性指標に基づくESD 推進自治体の評価と指標開発
朝岡 幸彦	東京農工大学農学研究院・教授	ESD 地域創生拠点における、学びに関する研究	②調査・評価チーム 社会教育の視点からのESD 推進自治体の評価と指標開発
小玉 敏也	麻布大学 生命・環境科学部教職学芸員課程・教授	ESD 地域創生拠点における、学校教育の役割に関する研究	②調査・評価チーム 学校教育の視点からのESD 推進自治体の評価と指標開発
高橋 正弘	大正大学 人間学部人間環境学科・教授	ESD 地域創生拠点における、学社協働に関する研究	②調査・評価チーム 学社協働の視点からのESD 推進自治体の評価と指標開発。また、「①ESD 地域創生拠点化チーム」との連携・調整役も担う
(共同研究機関等)			

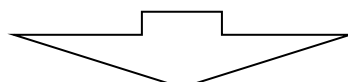
法人番号	131095
プロジェクト番号	S1591005

<研究者の変更状況(研究代表者を含む)>

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
ESD による地域創生の評価とESD 地域創生拠点の形成に関する研究	異文化コミュニケーション研究科・教授	阿部 治	①ESD 地域創生拠点化チーム、②調査・評価チームの責任者として本研究プロジェクト全体を統括する

(変更の時期:平成 28 年 4 月 1 日)



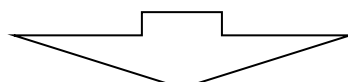
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
異文化コミュニケーション研究科・教授	社会学研究科・教授	阿部 治	①ESD 地域創生拠点化チーム、②調査・評価チームの責任者として本研究プロジェクト全体を統括する

旧

ESD 地域創生拠点における、住民の地域環境意識形成に果たす場所論に関する研究	異文化コミュニケーション研究科・教授	野田 研一	①ESD 地域創生拠点化チーム ESD 地域創生に果たす、住民意識を特に「場所意識」の視点から、概念化を図る
---	--------------------	-------	---

(変更の時期:平成 28 年 4 月 1 日)



新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
異文化コミュニケーション研究科・教授	ESD 研究所・所員	野田 研一	①ESD 地域創生拠点化チーム ESD 地域創生に果たす、住民意識を特に「場所意識」の視点から、概念化を図る

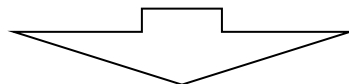
旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
ESD 地域創生拠点における、住民の地域環境意識形成に果たす場所論に関する研究	ESD 研究所・所員	野田 研一	①ESD 地域創生拠点化チーム ESD 地域創生に果たす、住民意識を特に「場

法人番号	131095
プロジェクト番号	S1591005

			所意識」の視点から、概念化を図る
--	--	--	------------------

(変更の時期:平成 28 年 6 月 2 日)



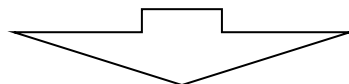
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
ESD 研究所・所員	名誉教授	野田 研一	①ESD 地域創生拠点化チーム ESD 地域創生に果たす、住民意識を特に「場所意識」の視点から、概念化を図る

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
ESD 地域創生拠点における、第一次産業の果たす役割に関する研究	ビジネスデザイン研究科・准教授	大山 利男	①ESD 地域創生拠点化チーム ESD 地域創生に果たす、第一次産業の役割の見える化、つなぐ化を行う。また、「②調査・評価チーム」との連携・調整役も担う

(変更の時期:平成 28 年 4 月 1 日)



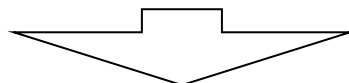
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
ビジネスデザイン研究科・准教授	経済学研究科・准教授	大山 利男	①ESD 地域創生拠点化チーム ESD 地域創生に果たす、第一次産業の役割の見える化、つなぐ化を行う。また、「②調査・評価チーム」との連携・調整役も担う

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

(変更の時期:平成 28 年 4 月 1 日)



法人番号	131095
プロジェクト番号	S1591005

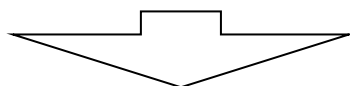
新

変更前の所属・職名	変更（就任）後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	公益社団法人キープ協会環境教育事業部・事業部長	増田 直広	①ESD 地域創生拠点化チーム ESD 地域創生に果たす、自然学校による地域創生の可能性の模索

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
ESD 地域創生拠点における、自然学校による地域創生の可能性に関する研究	公益社団法人キープ協会環境教育事業部・事業部長	増田 直広	①ESD 地域創生拠点化チーム ESD 地域創生に果たす、自然学校による地域創生の可能性の模索

(変更の時期:平成 29 年 4 月 15 日)



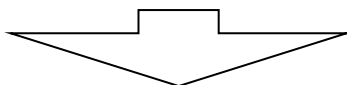
新

変更前の所属・職名	変更（就任）後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
公益社団法人キープ協会環境教育事業部・事業部長	公益社団法人キープ協会・主席研究員	増田 直広	①ESD 地域創生拠点化チーム ESD 地域創生に果たす、自然学校による地域創生の可能性の模索

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
ESD 地域創生に果たす、CSR/CSV に関する研究	立教大学異文化コミュニケーション研究科・特任准教授	中西 紹一	①ESD 地域創生拠点化チーム ESD 地域創生に果たす、ESD 地域創生拠点支援企業ネットワークの構築を行う

(変更の時期:平成 30 年 4 月 1 日)



新

変更前の所属・職名	変更（就任）後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
異文化コミュニケーション研究科・特任准教授	専修大学ネットワーク情報学部・客員教授	中西 紹一	①ESD 地域創生拠点化チーム ESD 地域創生に果たす、

法人番号	131095
プロジェクト番号	S1591005

			ESD 地域創生拠点支援 企業ネットワークの構築 を行う
--	--	--	------------------------------------

法人番号	131095
プロジェクト番号	S1591005

11 研究進捗状況(※ 5枚以内で作成)

(1) 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

ESD(Education for Sustainable Development: 持続可能な開発のための教育)研究は、環境・経済・社会・文化のあらゆる領域をカバーする学際的研究であり、その成果は本研究プロジェクトの代表者が深く関わってきた「国連持続可能な開発のための教育(ESD)の10年」(2005～2014年)や、所長を務める「立教大学 ESD 研究所」の活動等によって、地域住民の学びやエンパワーメントを通じた人づくりによる地域づくりという形で広がりを見せてきた。しかし、ESD を通じた地域づくりについては、個々の先進事例はあるものの、理論化・体系化されておらず、全国への波及展開にも至っていない。本研究プロジェクトでは、ESD による地域づくりの先進事例についての持続可能性指標を用いた評価と、ESD 地域創生拠点の形成を試みるアクションリサーチを通じて、新たな視点を加えた ESD 研究を発展させると共に、どの地域でもカスタマイズ可能な ESD 地域創生プログラムを提示し、活用を促すことを目的とする。本研究プロジェクトの意義は、少子化や過疎高齢化、原発事故以降のエネルギー等の国内問題や、気候変動による自然災害等の国際問題が同時進行している課題先進国である日本において、国際的に活躍できるグローバル人材の育成に寄与すると共に、「ESD 地域創生研究センター」の設置を通して地域における ESD 推進の基盤を形成することにある。

1 年目は、全国の自治体を対象とした悉皆調査を行い、次年度以降の ESD 調査・評価ならびにアクションリサーチのための計画を作成する。併せて従来個別に行われてきた各地域における ESD に関するネットワークを本研究プロジェクトの計画に即して整備し、研究基盤を固める。また、北東アジア諸国や欧州諸国の ESD による地域創生の現状について、現地の研究協力者と共に調査を行う。2 年目は、アクションリサーチの対象となる自治体及び調査・評価を行う対象地域を選定し、現地でのヒアリングと実態調査を行う。3 年目は、現地における ESD 推進組織(行政や NGO/NPO など)との関係構築に配慮しながら、アクションリサーチ、調査・評価研究を進める。4 年目は、ESD 地域創生拠点形成に向けた ESD 地域創生プログラムの策定を行うと共に「ESD 地域創生研究センター」を設置し、新しい持続可能性評価指標を完成させる。5 年目は、ESD 地域創生プログラムを用いて、ESD 地域創生研究の理論化・体系化を進め、各地域における ESD 地域創生拠点形成のためのコンサルティング活動を開始する。また、書籍の刊行等を通じて、研究成果の社会還元を行う。

(2) 研究組織

本研究では、目的を達成するために、本研究プロジェクトに参加する研究者を、①ESD 地域創生拠点化チーム(アクションリサーチの対象地域を選定し、各地域のテーマに即した ESD 地域創生拠点形成を行う)、②調査・評価チーム(調査・評価対象地域を選定し、持続可能性指標の視点から ESD による地域の持続可能性を評価する)の2チームに編成し、研究を実施する。両チームを研究代表者(阿部)が統括し、各チームに連携・調整役(大山、高橋)を置く。これら2つのチームは、年に2回以上の全体会議を開催し、研究進捗と、評価・改善策を共有する。それらを踏まえて、「ESD 地域創生研究センター」設置に向けた協議を行う。また、本研究プロジェクト全体を対象としたシンポジウム、ワークショップ、講演会等を企画する。なお、本研究プロジェクトに関わらない学外の研究機関、NGO/NPO、企業等における研究者・実務家から成る外部評価委員会を設置し、3年目と5年目の最後に、中間および最終成果の評価を受ける。

(3) 研究施設・設備等

本研究プロジェクトの母体であり、既存の大学附置研究機関である「立教大学 ESD 研究所」(立教大学池袋キャンパス 12 号館 B206)および本研究プロジェクト実施のために学内審査によって採択された「研究プロジェクト室 1」(同前 B226)を活用し、研究を行った。

法人番号	131095
プロジェクト番号	S1591005

(4)進捗状況・研究成果等 ※下記、13及び14に対応する成果には下線及び＊を付すこと。

＜現在までの進捗状況及び達成度＞

【平成 27 年度】

初年度は、「ESD 地域創生拠点化チーム」と「調査・評価チーム」の合同で研究を進めた。

(1)全国全ての自治体を対象とする悉皆調査を行った。アンケート調査の内容は主に、持続可能な地域づくりの到達点とそれを担う人づくりに関するものとし、学校教育や社会教育におけるESDの取り組みにとどまらず、地域づくりとしてのESDの取り組みや期待等もカバーするために、主に ESD を主管している教育委員会に加え、企画部局等庁内横断で総合振興計画等を所管している部局も対象者とした。アンケートの回収率を上げるために環境自治体会議の協力を仰いだ。これによって得られる結果をもとに、ESDによる地域創生の現状とニーズを把握し、対象候補地で現地調査を実施した。これにより、次年度以降に行われる調査・評価ならびにアクションリサーチのための計画を作成した。

(2)従来個別に行われてきた、各地域における ESD に関する調査・研究体制及び各ステークホルダーとのネットワークを本研究プロジェクトの計画に即して整備し、研究基盤を固めた。また北東アジアや欧州の地域における ESD の実態調査も開始した。日本と同様の地域創生課題を抱え、共同研究の意思を確認している研究者が在籍する大学機関(清州教育大学<韓国>、台湾師範大学<台湾>、ウプサラ大学<スウェーデン>、等)と共同で現地調査を行った。具体的には、各国で行われている地域創生の取り組みについて、ESD の視点から実態把握を行い、地域創生において ESD の果たす可能性と役割について、各国で研究協力者や専門家を交えた研究協議を行った。

(3)初年度は 2 つのチームが合同で研究を進め、定例の研究会を開催して研究状況の共有化を行ってきた。くわえて本研究プロジェクト全体を対象としたキックオフシンポジウム「ESD×地域創生-地域創生に果たす人づくりの役割-」(別紙1)を開催し、〈人づくりによる地域づくり〉という本研究プロジェクトの視座を前端的に打ち出して次年度以降の指針とし、本研究プロジェクトの普及を図るとともに、国内の関係者間ネットワークの構築に寄与した。

【平成 28 年度】

初年度の研究を受けて、アクションリサーチおよび調査・評価対象地域を選定し、2 つのチームが個別に研究を開始した。

① ESD 地域創生拠点化チーム

初年度のアンケート調査およびプロジェクトメンバーの知見や先行研究、予備調査などの成果をもとに、アクションリサーチの対象となる自治体を選定し、現地でのヒアリングと実態調査を行った。その結果、3 自治体(長崎県対馬市、北海道羅臼町、静岡県西伊豆町)と ESD 研究所との間で「ESD 研究連携に関する覚書」を締結し、環境・経済・社会・文化の文脈に沿った各地域の持続可能性の実態把握を行った。覚書締結自治体の中でも、とくに対馬市との間で、学生によるアクションリサーチや「対馬学フォーラム」での成果発表など、次年度以降につながる研究を実施した。対馬市との連携事業については年度末に報告書にまとめ(※業績 R-2)、プロジェクトメンバーのみならず、対馬市へのフィードバックや、他の覚書締結自治体に対するモデルとなるプログラムを提示した。また羅臼町において、当該時点の覚書締結 3 自治体による合同研究会を開催し、相互の情報交換と交流の場を設け、自治体間の連携を推進する基盤を構築した。

②調査・評価チーム

初年度に実施した全国自治体アンケートの集計結果の整理作業を開始した。加えて評価指標、組織、人材、支援体制の有無等の視点から対象地域を選定し、ESD による地域づくりの調査・評価を行った。また、北東アジアと欧州における ESD の調査も継続し、各国で行われ

法人番号	131095
プロジェクト番号	S1591005

ている地域創生の取り組みについて、ESD の視点から実態把握を行い、地域創生において ESD の果たす可能性と役割について、各国で研究協力者や専門家を交えた研究協議を行い、日本の ESD 地域創生拠点における調査・評価項目に反映させる基盤形成を行った。

③全体

2つのチームで定例の全体会議を開催し、研究進捗、評価と改善策を共有した。それらをふまえて「ESD 地域創生研究センター準備室」を設置し、同センター設立に向けた準備を開始した。また本研究プロジェクト全体で連続講演会(別紙2)を実施し、前年度のシンポジウム(別紙1)の成果と併せて、『ESD の地域創生力:持続可能な社会づくり・人づくり 9 つの実践』(※図書 IB-1)を刊行、各地域・各機関等による取り組みについて検証した。

【平成 29 年度】

①ESD 地域創生拠点化チーム

前年度の取り組みを継続し、プロジェクトメンバーの専門領域・テーマに基づき、環境・経済・社会・文化の文脈に沿った各地域の持続可能性の実態把握を行った。特に当該年度は、他の ESD 研究ではほとんど検討されてこなかった「文化」に着目し、住民の地域環境意識の検討といった、場所論的アプローチや地元学的アプローチを行うことで、持続可能な地域づくりに向けた住民のポテンシャル(主体に参画する意思)の把握に努めた。

(1)長崎県対馬市との連携の中では、前年度と同じく学生によるアクションリサーチを実施した。また、写真家の宮嶋康彦氏を講師に招いて「写真ワークショップと地域創生」を実施し、写真というメディアを活用することで、景観としての〈場所〉を意識化し、さらに〈対馬〉という特定の場所・空間および風景がどのような要素によって組成され、機能しているかを対馬市民自身が探る写真撮影および写真集制作に関する実践講座を開催した。それらの成果は「対馬学フォーラム 2017」(※学会発表 IC-10)で発表した。くわえて、対馬市教育委員会と一般社団法人 MIT の協力を得、対馬市内の小学校における ESD 教育プログラムを作成し、一定の成果が期待できるプログラムを実施した。

(2)北海道羅臼町では、前年度の対馬市での取り組みをモデルケースとして、学生によるアクションリサーチを実施し、羅臼高校の高校生との交流や、羅臼町で行われている「知床学」の学習等を通じて、外部者の参画を通した ESD による地域創生の有効性と課題を明らかにした。

(3)静岡県西伊豆町は地域の多様なステークホルダーによる「西伊豆 ESD 推進委員会」を設立し、プロジェクトメンバー(上田)が副委員長に就任。ESD 地域創生拠点形成に向けた協議を重ね、地域住民が主体的に ESD による地域創生に参加する場を設置する一助を担った。また、前年度に羅臼町で開催した合同研究会を、当年度は西伊豆町で実施した。

(4)新たに長野県飯田市との間に ESD 研究連携に関する覚書を締結した。

(5)日本商工会議所、日本青年団協議会、ローソンなどとともに、ESD 地域創生に果たす企業等の役割(CSR/CSV)に関する研究会を組織し、次年度以降の具体的活動に向けた課題抽出作業を開始した。

②調査・評価チーム

初年度に実施した全国自治体アンケートの集計結果をふまえて、分析の途中経過に関する報告を行った。(※学会発表 IC-16)上記のアンケート集計結果については、平成 29 年度中に整理を概ね完了させ、「ESD 地域創生拠点化チーム」への還元や、新たな持続可能性調査指標の確立のための準備を整えた。

また、すでに ESD 等に関わる先進的な取り組みを行ってきた長野県飯田市での複数回にわたる調査によって、ESD の視座からみた同地域の課題等を明らかにし、上述した覚書締結に至る基盤を構築した。締結後も ESD 地域創生拠点形成のための調査を継続している。

法人番号	131095
プロジェクト番号	S1591005

③全体

2つのチームは、定例の全体会議を開催し、研究進捗、評価と改善策を共有した。また本研究プロジェクト全体で、国内外の研究者を招聘し、当該時点での成果を世界に向けて広く公開するための国際シンポジウム「ESD による地域創生の可能性と今後の展開」(別紙9)を開催し、日本と諸外国における ESD による地域創生に関わる課題の共通点と相違点を明確化し、共有することができた。また、学外の研究者から成る外部評価委員会による中間評価を行った。

<特に優れた研究成果>

特になし。

<問題点とその克服方法>

「ESD 地域創生拠点化チーム」を中心とする、覚書締結自治体との連携事業、アクションリサーチ、それらの成果を発信する講演会・シンポジウム、書籍・報告書制作といった「ESD 地域創生拠点の形成」に関する研究は順調に進んでいるが、本研究プロジェクトのもうひとつの柱である「ESD による地域創生の評価」に関する研究(「調査・評価チーム」)については、前者の進捗度に比して若干の遅れが見られる。その点に関しては、主として以下の3点によって克服を図る予定である。

(1)初年度に実施した全国自治体アンケートの集計結果の整理が平成29年度までに概ね完了したため、それに基づく分析等を通して成果の発信を行う。

(2)「ESD 地域創生拠点化チーム」が各覚書締結自治体で実施しているアクションリサーチ等の成果を、自治体間の比較等によって検証し、「ESD 地域創生拠点化チーム」の研究を「調査・評価チーム」に生かし、両者の統合および双方向的なアプローチをとることで、実証的なデータ収集と分析を行っていく。

(3)上記の2点をふまえて、ESD による地域の新たな持続可能性指標を作成する。

<研究成果の副次的効果(実用化や特許の申請など研究成果の活用の見通しを含む。)>

立教大学 ESD 研究所と各覚書締結自治体との連携にとどまらず、覚書締結自治体の主要担当者等が一堂に会する合同研究会の実施や相互視察などに発展し、自治体間の交流・学習・連携に影響を及ぼすことができた。ESD が有する「つなぐ」装置としての機能が発揮された成果のひとつであり、ESD に関する取り組みに程度の差がある自治体同士が、他の自治体の取り組みや事例を参照することで、ESD による地域創生という方法が多様かつ広範に展開され始めた。また、国際シンポジウム(別紙9)の開催を通して、覚書締結自治体である対馬市の事例報告が海外の研究者から注目を集め、今後の連携可能性が生まれ、国内の先進的な取り組みの海外への紹介といった観点からも重要な成果であった。

<今後の研究方針>

①ESD 地域創生拠点化チーム

前年度までに「ESD 研究連携に関する覚書」を締結した4自治体に加え、山形県高畠町との覚書締結をめざし、全5自治体を対象にESD 地域創生拠点形成のためのアクションリサーチ等を継続する。そのうえで、西伊豆町以外の自治体でも「ESD 地域創生研究会(仮称)」を発足させ、ESD 地域創生拠点形成のシナリオを完成させる。また、自然学校を通じた ESD 地域創生の可能性についても検証する。

②調査・評価チーム

法人番号	131095
プロジェクト番号	S1591005

全国自治体アンケートの集計結果を分析するとともに、持続可能性指標の視点から ESD による地域づくりの調査・評価を行い、全体の成果として調査・評価報告書を取りまとめる。得られた成果は随時「ESD 地域創生拠点化チーム」に還元する。また、北東アジアと欧州における ESD による地域創生の課題と日本との協力についての成果を取りまとめ、ESD による地域づくりの調査・評価結果と合わせて、新しい評価指標を完成させる。

③ESD 地域創生研究センターの設置

①②の成果をふまえて、ESD 地域創生研究センターを研究所内に設置し、対象地域(自治体)とのつながりをプロジェクト終了によって途絶してしまうことなく、活動の継続とフォローアップする仕組みづくりを企図。持続可能性指標の完成をめざす。各地域での「ESD 地域創生研究会(仮称)」で作られた ESD 地域創生拠点形成シナリオの共有を目的とする「ESD 地域創生会議」を構築し、以後の活動指針の策定を行う。

<今後期待される研究成果>

(1)ESD による地域創生が世界に先駆けて理論化・体系化され、ESD による持続可能な地域づくりのモデルや方法論を一般化して提示できる。また、国際的にも活用可能な、新たな持続可能性指標を開発することができる。

(2)日本の課題は今後世界共通の課題と予想されることから、本研究や形成された拠点での活動に参画する大学院生やステークホルダーは地域でも国際的にも活躍できるグローバル人材として育成され、国内外での活躍が期待される。

(3)「ESD 地域創生研究センター」の設置により、国際的な研究基盤とネットワークが形成され、研究の進展や成果の世界的な公開が期待される。また、ESD 地域創生プログラムの開発と ESD 地域創生拠点形成のためのコンサルティング活動により、日本における世界に先駆けた持続可能な社会の構築に寄与できる。

<自己評価の実施結果及び対応状況>

年に複数回開催している全体会議において、2 チームの研究進捗状況を報告し、情報の共有と相互評価、自己点検、それぞれの成果の還元を行っている。とくに、覚書締結自治体が確定してきたことによって、各覚書締結自治体にそれぞれプロジェクトメンバーから担当者を配し、全体が過不足なく研究を遂行できる体制が構築されてきた。覚書締結の順序による進捗の差異はあるものの、先行する自治体での取り組みをモデルケースとして他の自治体がそれを応用するなど、概ね当初の計画どおりに研究は遂行されている。なお、個々の自治体によってニーズが異なるという課題について、教育委員会だけではなく、首長部局も含めて ESD による地域創生を検証することで、その対応策を講じている。

<外部(第三者)評価の実施結果及び対応状況>

学外の諸分野の専門家に外部評価委員(大高研道氏: 明治大学政治経済学部教授、田中治彦氏: 上智大学総合人間科学部教授、古沢広祐氏: 國學院大學経済学部教授)を委嘱し、3 年目にあたる平成 29 年度に外部評価委員会を実施した(12 月 12 日)。これまで「持続可能性」という言葉自体は長年用いられているが、社会全体では破綻が起こっている現在において、住民が主体化していくところに ESD の重要性があり、環境問題や特定の課題に焦点化するのではなく、複合的・多次元的な視点から持続可能性を考える本研究は、ESD の発展形として大きな意義があるとの評価を受けた。

法人番号	131095
プロジェクト番号	S1591005

12 キーワード(当該研究内容をよく表していると思われるものを8項目以内で記載してください。)

- | | | |
|------------------|------------------|----------------|
| (1) <u>ESD</u> | (2) <u>環境教育</u> | (3) <u>地域学</u> |
| (4) <u>生態環境史</u> | (5) <u>場所論</u> | (6) <u>観光学</u> |
| (7) <u>経済学</u> | (8) <u>教育社会学</u> | |

13 研究発表の状況(研究論文等公表状況。印刷中も含む。)

上記、11(4)に記載した研究成果に対応するものには*を付すこと。

I. ESD 地域創生拠点化チーム(阿部、野田、上田、橋本、大山、中西)

<雑誌論文>

No.	査読	著者名	論文表題	雑誌名	ページ	発行年
IP-1		阿部治	社会の要請に応える『新しい教育課題』ESD その1『ESD』の基礎的知識と生まれた背景	教職研修	46-47	2015
IP-2		阿部治	都市から農山村漁村への人の流れは必然だ	社会教育 727	1	2016
IP-3	有	荻原彰、阿部治、高橋正弘、中口穀博、三石初雄、水山光春	全国調査による市区町村の学校教育に対する環境教育政策の実施状況と政策実施上の問題点	環境教育 第27巻第2号	51-61	2017

<図書>

No.	著者名	出版社	
*IB-1	阿部治編著	合同出版	
書名		発行年	総ページ数
ESD の地域創生力:持続可能な社会づくり・人づくり9つの実践		2017	207
No.	著者名	出版社	
IB-2	阿部治・朝岡幸彦監修、福井智紀・佐藤真久編	筑波書房	
書名		発行年	総ページ数
「大都市圏における環境教育・ESD の展望」(pp.11-20)、『大都市圏の環境教育・ESD』		2017	208
No.	著者名	出版社	
IB-3	阿部治、日本湿地学会編	朝倉書店	
書名		発行年	総ページ数

法人番号	131095
プロジェクト番号	S1591005

「ESD:持続可能な社会づくりのための教育」(pp.174-175) 『日本の湿地-人と自然と多様な水辺-』		2017	228
No.	著者名	出版社	
IB-4	野田研一・山本洋平・森田系太郎編	勉誠出版	
書名		発行年	総ページ数
環境人文学Ⅱ:他者としての自然		2017	352

<学会発表>

No.	発表者名	発表タイトル	
IC-1	阿部治	基調講演:ラムサール条約登録湿地とESDの第2ステージ～地域づくりと人づくりの視点から	
学会名		開催地	発表年月
ラムサール条約登録湿地関係市町村会議		福井県若狭みかたきらら温泉	2015年12月
No.	発表者名	発表タイトル	
IC-2	阿部治	GAP and SDGs Strengthening Commitments	
学会名		開催地	発表年月
Education as a Driver for Sustainable Development Goals(招待)		インド	2016年1月
No.	発表者名	発表タイトル	
IC-3	阿部治	地域創生に環境教育・ESDをどう活かすか	
学会名		開催地	発表年月
環境自治体会議全国大会 2016 東京会議		芝浦工業大学豊洲キャンパス	2016年5月
No.	発表者名	発表タイトル	
IC-4	阿部治	持続可能な開発のための教育 国連の10年:2005-2014」の評価:特に日本におけるその成果とプロセスについて	
学会名		開催地	発表年月
日本評価学会春季第13回全国大会		JICA 横浜	2016年5月
No.	発表者名	発表タイトル	
IC-5	阿部治	グローバリゼーションと地域	
学会名		開催地	発表年月
国際シンポジウム:持続可能な社会の形成に向けた「場の教育」		立教大学	2017年1月
No.	発表者名	発表タイトル	

法人番号	131095
プロジェクト番号	S1591005

IC-6	阿部治	日本の環境教育法とその課題	
学会名		開催地	発表年月
韓国環境教育学会(招待)		全州大学(韓国)	2017年6月
No.	発表者名	発表標題	
IC-7	阿部治	Advancing Monitoring, Evaluation, and Research on Sustainability in Education	
学会名		開催地	発表年月
International Policy Forum(招待)		Springbrooke Retreat and Conference Center(カナダ)	2017年9月
No.	発表者名	発表標題	
IC-8	阿部治	Education for Sustainable Development in Japan	
学会名		開催地	発表年月
International Symposium		台湾師範大学(台湾)	2017年9月
No.	発表者名	発表標題	
IC-9	阿部治	“サステナビリティ感覚”とは？-SDGs実現を目指す産業界・行政・アカデミアによる人材育成-	
学会名		開催地	発表年月
超異分野学会 2018(招待)		TEPIA 先端技術館	2018年3月
No.	発表者名	発表標題	
* IC-10	野田研一・宮嶋康彦・ 笹川貴吏子	写真ワークショップと地域創生 Regional Revitalization through Photo Workshop in Tsushima	
学会名		開催地	発表年月
対馬学フォーラム		対馬市交流センター	2018年3月

Ⅱ. 調査・評価チーム(阿部、中口、朝岡、小玉、高橋、川嶋、増田)

<雑誌論文>

No.	査読	著者名	論文表題	雑誌名	ページ	発行年
Ⅱ P-1		中口毅博	ESD および地域の持続可能性指標における教育関連項目の分析: 世界各国とヨーロッパの地域レベル指標を事例に	日本環境教育学会関東支部年報 10	41-44	2016
Ⅱ P-2	有	中口毅博	地域レベルの持続可能性指標の算定と妥当性の検証: 愛媛県内子町とドイツフライブルク市の事例	環境科学会誌 29(2)	104-115	2016

法人番号	131095
プロジェクト番号	S1591005

Ⅱ P-3		小玉敏也	学校での環境教育における 参加型学習の実践評価	立教異文化コミュニケーション 学会記念論文集	25-38	2016
Ⅱ P-4		川嶋直	自然体験活動・自然学校などの 指導者やリーダー、エコ ツーリズムなどのガイド養成 手法のさまざまなかたち	国立公園 749	3-7	2016
Ⅱ P-5		中口毅博	自治体における低炭素化対 策の現状と課題:再生可能 エネルギー利用を中心に	化学物質と環境 140	13-15	2016
Ⅱ P-6		中口毅博	教育活動の持続可能性評 価のための指標の提案	第 15 回環境ア セスメント学会 論文報告集	122-127	2016
Ⅱ P-7		朝岡幸彦・ 澤田真一	大学と連携する自治体の地 域戦略	住民と自治 645	15-19	2016
Ⅱ P-8		朝岡幸彦	食育・食農教育と地域づくり の可能性(1)農業が育てる力	週刊農林 2323	4-5	2017
Ⅱ P-9		朝岡幸彦	食育・食農教育と地域づくり の可能性(2)おふくろの味 VS ファストフード	週刊農林 2324	6-7	2017
Ⅱ P-10		朝岡幸彦	食育・食農教育と地域づくり の可能性(3) 学校給食と地域づくり	週刊農林 2330	4-5, 13	2017
Ⅱ P-11		小玉敏也	「社会に開かれた教育課程」 が変える学校と地域の環境 学習	日本の社会教育実践 2017: 第 57 回社会教育研究全国集 会資料集	120-122	2017
Ⅱ P-12		中口毅博	地方創生総合戦略と地域の 持続可能性	ガバナンス	30-32	2017
Ⅱ P-13		中口毅博	持続可能な地域づくりの拠 点としての環境学習センター の役割	リサイクルプラ ザ・環境学習セ ンター リサイク ルプラザ・環境 学習センター活 性化プログラム in 豊田	1-6	2017

法人番号	131095
プロジェクト番号	S1591005

<図書>

No.	著者名	出版社	
ⅡB-1	小玉敏也・村山史世	教育出版	
書名		発行年	総ページ数
「地域の多様な教育資源を生かした実践」(pp.104-111)、『持続可能性の教育:新たなビジョンへ』		2015	132
No.	著者名	出版社	
ⅡB-2	朝岡幸彦、日本社会教育学会編	東洋館出版社	
書名		発行年	総ページ数
「ESD 時代における社会教育の役割」(pp.23-32)、『社会教育としての ESD』		2015	265
No.	著者名	出版社	
ⅡB-3	中口毅博・環境自治体会議環境政策研究所編	生活社	
書名		発行年	総ページ数
環境自治体白書 2015-2016 年版:住宅都市からの挑戦		2016	194
No.	著者名	出版社	
ⅡB-4	朝岡幸彦・亀山純生・木村光伸編	農林統計出版	
書名		発行年	総ページ数
「ESD と共生社会の教育」(pp.103-118)、『共生社会 I 』		2016	280
No.	著者名	出版社	
ⅡB-5	小玉敏也	Routledge	
書名		発行年	総ページ数
Globalising school education in Japan: investigation using the academic ability model' (pp.67-83), "Education for Sustainability in Japan: Fostering resilient communities after the triple disaster"		2016	308
No.	著者名	出版社	
ⅡB-6	中口毅博+環境自治体会議環境政策研究所編	生活社	
書名		発行年	総ページ数
外の力の利用形態と利用における留意点 (pp.8-19)『環境自治体白書 2016-2017 年版 外の力を活用した持続可能な地域づくり』		2017	222

法人番号	131095
プロジェクト番号	S1591005

No.	著者名	出版社	
Ⅱ B-7	小玉敏也	筑波書房	
書名		発行年	総ページ数
「これからの学校はどうあるべきか? : 都市生態系の中での学校教育を問い直す」(pp.44-46)、『大都市圏の環境教育・ESD』		2017	208
No.	著者名	出版社	
Ⅱ B-8	中口毅博編	生活社	
書名		発行年	総ページ数
『環境自治体白書 2017-2018 年版: 地域における持続可能な消費と生産』		2018	204

<学会発表>

No.	発表者名	発表タイトル	
Ⅱ C-1	中口毅博・石塚竣介	発表段階に応じた ESD の学習効果把握手法に関する考察: 愛媛県内子町を事例に	
学会名		開催地	発表年月
こども環境学会		福島県	2015 年 4 月
No.	発表者名	発表タイトル	
Ⅱ C-2	中口毅博	農山村での実践的学習が都市に住む大学生の意識・行動に及ぼす影響: 芝浦工業大学生の愛媛県内子町における実習の事例	
学会名		開催地	発表年月
日本環境教育学会		名古屋市立大学滝子キャンパス	2015 年 8 月
No.	発表者名	発表タイトル	
Ⅱ C-3	増田直広	北杜市幼児環境教育プロデュース事業における実践と考察③	
学会名		開催地	発表年月
日本環境教育学会		名古屋市立大学滝子キャンパス	2015 年 8 月
No.	発表者名	発表タイトル	
Ⅱ C-4	小玉敏也	日本の学校における環境教育の動向	
学会名		開催地	発表年月
China, Japan, Korea Environmental workshop		カラマイ、中国	2015 年 8 月
No.	発表者名	発表タイトル	

法人番号	131095
プロジェクト番号	S1591005

Ⅱ C-5	中口毅博	アクションリサーチや参与観察による環境政策・環境教育の実践と評価	
学会名		開催地	発表年月
環境科学会		大阪大学吹田キャンパス	2015 年 9 月
No.	発表者名	発表標題	
Ⅱ C-6	中口毅博	愛媛県内子町における持続可能性指標の算定および妥当性の検証	
学会名		開催地	発表年月
日本地理学会		愛媛大学	2015 年 9 月
No.	発表者名	発表標題	
Ⅱ C-7	森元公彦・新田純奈・中口毅博	高校生を対象とした地域連携型学習プログラムの日独比較評価—S 学校と A 高校を事例に—	
学会名		開催地	発表年月
日本 LCA 学会		東京大学柏キャンパス	2016 年 3 月
No.	発表者名	発表標題	
Ⅱ C-8	小玉敏也	「ESD 環境教育プログラム」から見えてくる ESD の意義	
学会名		開催地	発表年月
ESD・環境教育実践フォーラム		福岡市	2016 年 3 月
No.	発表者名	発表標題	
Ⅱ C-9	中口毅博	高校生の主体的学びが地域の持続可能性に及ぼす効果—愛媛県内子町におけるヒューマンソーシャルライフサイクル分析(その2)	
学会名		開催地	発表年月
日本 LCA 学会		産業技術総合研究所つくばセンター	2017 年 3 月
No.	発表者名	発表標題	
Ⅱ C-10	西口光・中口毅博	国際基準による内子町のグリーンツーリズムの評価	
学会名		開催地	発表年月
日本 LCA 学会		産業技術総合研究所つくばセンター	2017 年 3 月
No.	発表者名	発表標題	
Ⅱ C-11	中口毅博	変容率を指標とした総合学習のカリキュラム改善効果に関する研究—愛媛県内子町 A 小の事例—	
学会名		開催地	発表年月
こども環境学会		北海道文教大学	2017 年 5 月
No.	発表者名	発表標題	

法人番号	131095
プロジェクト番号	S1591005

II C-12	H. Kurishima, T.Nakaguchi, J.Nakatani	Development of Evaluation Methodology for Community Resilience Based on a Workshop of the Local Residents	
学会名		開催地	発表年月
Science in Support of Sustainable and Resilient Communities		Chicago	2017 年 6 月
No.	発表者名	発表標題	
II C-13	小玉敏也	「社会に開かれた教育課程」は学校と地域の環境学習を変えるのか？	
学会名		開催地	発表年月
社会教育研究全国集会		相模女子大学	2017 年 8 月
No.	発表者名	発表標題	
II C-14	小玉敏也	持続可能な未来の社会を創る教育「ESD」	
学会名		開催地	発表年月
日本環境教育学会		岩手県立大学アイーナキャンパス	2017 年 9 月
No.	発表者名	発表標題	
II C-15	増田直広	「自然体験×プログラミング体験」の環境教育実践の試み	
学会名		開催地	発表年月
日本環境教育学会		岩手県立大学アイーナキャンパス	2017 年 9 月
No.	発表者名	発表標題	
* II C-16	阿部治・中口穀博	自治体の地方創生ならびに ESD に関する施策の現状: 全国調査の結果を通じて	
学会名		開催地	発表年月
日本環境教育学会 第 28 回年次大会		岩手大学	2017 年 9 月
No.	発表者名	発表標題	
II C-17	小玉敏也	Status and Promotion Plans for Environmental Education in Japan	
学会名		開催地	発表年月
International Seminar on Status and Promotion Plans for Environmental Education in Taiwan, Japan, Korea		韓国	2017 年 10 月
No.	発表者名	発表標題	

法人番号	131095
プロジェクト番号	S1591005

Ⅱ C-18	中口毅博	農山村における持続可能な地域づくり活動が大学生の意識・行動に与える効果— 愛媛県内子町におけるヒューマンソーシャルライフサイクル分析(その3)	
学会名		開催地	発表年月
日本 LCA 学会		早稲田大学早稲田キャンパス	2018 年 3 月
No.	発表者名	発表標題	
Ⅱ C-19	中口毅博	農山漁村におけるエコツーリズムの比較に関する研究	
学会名		開催地	発表年月
日本 LCA 学会		早稲田大学早稲田キャンパス	2018 年 3 月

＜研究成果の公開状況＞(上記以外)

シンポジウム・学会等の実施状況、インターネットでの公開状況等

ホームページで公開している場合には、URL を記載してください。

＜既に実施しているもの＞

【2015 年(平成 27)度】

(1)2016 年 3 月 5 日

シンポジウム「ESD × 地域創生—地域創生に果たす人づくりの役割—」(別紙1)

<http://www.rikkyo.ac.jp/closeup/report/2016/0501.html>

【2016 年(平成 28)度】

(1)2016 年 6 月 7 日

公開講演会「長崎県対馬市と立教大学 ESD 研究所の ESD 研究連携に関する覚書締結記念講演会(ESD による地域創生)」

<http://www.rikkyo.ac.jp/news/2016/06/17791.html>

(2)2016 年 6 月 21 日

公開講演会「地域創生のための人づくり(地方創生カレッジ)と外部人材の活用(地域おこし協力隊)」(別紙2)

<http://www.rikkyo.ac.jp/events/2016/06/17818.html>

(3)2016 年 7 月 12 日

公開講演会「「緑のふるさと協力隊」から見る地域づくりと人づくり」(別紙2)

<http://www.rikkyo.ac.jp/events/2016/07/17829.html>

(4)2016 年 7 月 13 日

公開講演会「韓国の環境教育:三つの事例」(別紙3)

<http://www.rikkyo.ac.jp/events/2016/07/17896.html>

(5)2016 年 7 月 28 日

公開講演会「「やねだん(柳谷集落)」の取り組みから見る地域創生と人づくり」(別紙2)

<http://www.rikkyo.ac.jp/events/2016/07/17856.html>

(6)2016 年 8 月 1 日

法人番号	131095
プロジェクト番号	S1591005

東京芸術劇場×立教大学連携講座「池袋学」夏季特別講座「雑司が谷で「つながる」・「つなぐ」-ESD をキーワードとする地域づくりと人づくり」(別紙4)

<http://www.rikkyo.ac.jp/events/2016/08/17934.html>

(7)2016 年 9 月 11 日

公開講演会「水俣と福島の間—何故、過去に学べないのか—」(別紙5)

<http://www.rikkyo.ac.jp/events/2016/09/17954.html>

(8)2016 年 11 月 29 日

公開講演会「地域が発する問いと向き合う学習」

<http://www.rikkyo.ac.jp/events/2016/11/18452.html>

(9)2017 年 2 月 20 日

ESD 研究連携に関する覚書締結自治体の合同研究会(別紙6)

【2017 年(平成 29)度】

(1)2017 年 6 月 9 日

ESD 研究連携に関する覚書締結自治体情報交換会(羅臼)

(2)2017 年 6 月 17 日

公開講演会「立教大学 ESD 研究所のこれまでの 10 年、これからの 10 年—ESD をめぐる国内外の動向を踏まえて—」(別紙7)

<http://www.rikkyo.ac.jp/events/2017/06/qo9edr000000n2ia.html>

(3)2017 年 7 月 8 日

西伊豆町まちづくり講演会「持続可能な地域づくりと人づくり」

(4)2017 年 8 月 22 日-24 日、9 月 2 日

「としまグリーンキッズプロジェクト—としまの自然を歩こう・学ぼう・発信しよう—」(別紙8)

<http://www.rikkyo.ac.jp/research/institute/esd/qo9edr000000bk8h-att/mknpps0000004u3i.pdf>

(5)2017 年 9 月 9 日-10 日

公開講座「写真ワークショップと地域創生」、ESD 地域創生拠点形成に関する研究(2017 年度成果報告書)

<http://www.rikkyo.ac.jp/events/2017/09/mknpps00000042lt.html>

(6)2017 年 11 月 11 日-12 日

国際シンポジウム「ESD による地域創生の可能性と今後の展開—Prospects and Ongoing Challenges of Regional Revitalization based on ESD—」(別紙9)

<http://www.rikkyo.ac.jp/events/2017/11/mknpps0000005o00.html>

(7)2017 年 12 月 19 日

公開講演会「アメリカ国立公園における環境教育—アメリカから見た日本の環境教育と相互連携の可能性—」(別紙 10)

<http://www.rikkyo.ac.jp/events/2017/12/mknpps0000007p12.html>

(8)2018 年 1 月 16 日

第 12 回立教大学 ESD 研究所×キープ協会の環境教育基礎講座「地域創生と自然学校①」

<http://www.rikkyo.ac.jp/events/01/mknpps0000007rb2.html>

(9)2018 年 2 月 17 日

遠山郷の教育の可能性を考える学習会

<これから実施する予定のもの>

【2018 年(平成 30)度】

法人番号	131095
プロジェクト番号	S1591005

(1) 2018 年 6 月 12 日

第 13 回立教大学 ESD 研究所 × キープ協会の環境教育基礎講座「地域創生と自然学校②」

14 その他の研究成果等

「12 研究発表の状況」で記述した論文、学会発表等以外の研究成果及び企業との連携実績があれば具体的に記入してください。また、上記11(4)に記載した研究成果に対応するものには＊を付してください。

- (1) 2016 年度成果報告書雑司が谷で「つながる」・「つなぐ」-ESD をキーワードとする地域づくりと人づくり- (業績 R-1、別紙 11)
- (2) 立教大学 ESD 研究所と長崎県対馬市との ESD 研究連携に関する報告書(2016 年度) (*業績 R-2、別紙 12)
- (3) ESD 地域創生拠点形成に関する研究(2017 年度成果報告書)(業績 R-3、別紙 13)
- (4) ESD による地域創生の可能性と今後の展開(Prospects and Ongoing Challenges of Regional Revitalization Based on ESD) (業績 R-4、別紙 14)
- (5) としまグリーンキッズプロジェクト 2017 (業績 R-5、別紙 15)
- (6) ESD 研究連携に関する覚書締結(長崎県対馬市)
平成 28 年 6 月 17 日 対馬新聞掲載(その他:長崎新聞、日刊工業新聞掲載)
- (7) ESD 研究連携に関する覚書締結(北海道羅臼町)
平成 28 年 10 月 26 日 北海道新聞掲載(その他:釧路新聞掲載)
- (8) ESD 研究連携に関する覚書締結(静岡県西伊豆町)
平成 28 年 11 月 15 日 読売新聞掲載(その他:伊豆新聞、静岡新聞掲載)
- (9) ESD 研究連携に関する覚書締結(長野県飯田市)
平成 29 年 12 月 15 日 中日新聞掲載(その他:南信州新聞掲載)

15 「選定時」に付された留意事項とそれへの対応

<「選定時」に付された留意事項>

特になし

<「選定時」に付された留意事項への対応>

特になし

法人番号	131095
プロジェクト番号	S1591005

16 施設・装置・設備・研究費の支出状況(実績概要)

(千円)

年度・区分	支出額	内 訳						備 考
		法 人 負 担	私 学 助 成	共同研究機関負担	受託研究等	寄付金	その他()	
平成27年度	施 設	0						
	装 置	0						
	設 備	0						
	研究費	10,491	6,072	4,419				
平成28年度	施 設	0						
	装 置	0						
	設 備	0						
	研究費	17,991	12,411	5,580				
平成29年度	施 設	0						
	装 置	0						
	設 備	0						
	研究費	23,482	13,341	10,141				
総 額	施 設	0	0	0	0	0	0	
	装 置	0	0	0	0	0	0	
	設 備	0	0	0	0	0	0	
	研究費	51,964	31,824	20,140	0	0	0	
総 計		51,964	31,824	20,140	0	0	0	

17 施設・装置・設備の整備状況 (私学助成を受けたものはすべて記載してください。)

《施 設》(私学助成を受けていないものも含め、使用している施設をすべて記載してください。)

(千円)

施 設 の 名 称	整備年度	研究施設面積	研究室等数	使用者数	事業経費	補助金額	補助主体
立教大学12号館 B206(ESD研究所)		21㎡					
立教大学12号館 B226		21㎡					

※ 私学助成による補助事業として行った新增築により、整備前と比較して増加した面積

㎡

(様式1)

法人番号	131095
プロジェクト番号	S1591005

《装置・設備》(私学助成を受けていないものは、主なもののみを記載してください。)

(千円)

装置・設備の名称	整備年度	型番	台数	稼働時間数	事業経費	補助金額	補助主体
(研究装置)				h			
				h			
				h			
				h			
(研究設備)				h			
				h			
				h			
				h			
(情報処理関係設備)				h			
				h			
				h			
				h			

18 研究費の支出状況

(千円)

年 度	平成 27 年度			
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消 耗 品 費	410	消耗品費・用品費	410	ノートパソコン・パソコンソフト・ハンディプロジェクト
光 熱 水 費	0		0	
通信運搬費	12	電信電話費・郵便費	12	資料等郵送代、海外出張時通信通話料
印刷製本費	0		0	
旅費交通費	3,012	旅費交通費・海外出張費	3,012	実地調査旅費・講演会等講師招聘旅費・会議出張旅費
報酬・委託料	3,124	その他委託費・報酬手数料	3,124	アンケート調査業務委託・講演会等講師謝金
(出版物費)	394	その他図書資料費	394	書籍
(賃借料)	24	施設・設備等賃借料	24	調査地レンタカー代・通信機器レンタル料
(その他)	142	会議会合費・諸会費・雑費	142	シンポジウム会合費
計	7,118		7,118	
ア ル バ イ ト 関 係 支 出				
人件費支出	708	アルバイト(研究補助)	708	実人数2人(1×325h、交通費他)
(兼務職員)	2,097	教育研究コーディネーター(研究補助)	2,097	実人数1人(27.5×9ヶ月、雇用経費他)
教育研究経費支出				
計	2,805		2,805	
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教育研究用機器備品				
図 書				
計	0			
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント	568		568	学内1人
ポスト・ドクター				
研究支援推進経費				
計	568		568	

		法人番号		131095
		プロジェクト番号		S1591005
年 度	平成 28 年度			
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消 耗 品 費	902	消耗品費・用品費	902	文房具、ノートパソコン、プロジェクター
光 熱 水 費	0		0	
通信運搬費	31	電信電話費・郵便費	31	資料等郵送代、海外出張時通信通話料
印刷製本費	2,282	印刷費・製本費	2,282	書籍出版・報告書作成
旅費交通費	4,950	旅費交通費・海外出張費	4,950	実地調査旅費・講演会等講師招聘旅費・会議出張旅費
報酬・委託料	1,106	その他委託費・報酬手数料	1,106	講演会等講師謝金、テーブル起こし、通訳謝金
(出版物費)	1,223	その他図書資料費	1,223	書籍
(賃借料)	233	施設・設備等賃借料	233	調査地レンタカー代・通信機器レンタル料
(その他)	347	諸会費・雑費・燃料費	347	会議参加費・シンポジウム開催費
計	11,074		11,074	
ア ル バ イ ト 関 係 支 出				
人件費支出	1,796	アルバイト(研究補助)	1,796	実人数2人(1×830h、交通費他)
(兼務職員)	3,825	教育研究コーディネーター(研究補助)	3,825	実人数1人(27.5×12ヶ月、雇用経費他)
教育研究経費支出				
計	5,621		5,621	
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教育研究用機器備品	317	教育研究用機器備品	317	パソコン
図 書				
計	317		317	
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント	979		979	学内1人
ポスト・ドクター				
研究支援推進経費				
計	979		979	

年 度	平成 29 年度			
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消 耗 品 費	1,369	消耗品費・用品費	1,369	文房具、ノートパソコン、プロジェクター
光 熱 水 費	0		0	
通信運搬費	29	電信電話費・郵便費	29	資料等郵送代、海外出張時通信通話料
印刷製本費	972	印刷費・製本費	972	報告書作成
旅費交通費	7,180	旅費交通費・海外出張費	7,180	実地調査旅費・講演会等講師招聘旅費
報酬・委託料	3,002	その他委託費・報酬手数料	3,002	調査業務委託費、講演会等講師謝金、テーブル起こし
(出版物費)	191	その他図書資料費	191	図書・資料費
(賃借料)	230	施設・設備等賃借料	230	調査地レンタカー代・通信機器レンタル料
(その他)	166	会議会合費・諸会費・燃料費	166	会議会合費・諸会費・燃料費
計	13,139		13,139	
ア ル バ イ ト 関 係 支 出				
人件費支出	5,488	アルバイト(研究補助)	5,488	実人数5人(5325h、交通費他)
(兼務職員)	3,857	教育研究コーディネーター(研究補助)	3,857	実人数1人(27.5×12ヶ月、雇用経費他)
教育研究経費支出				
計	9,345		9,345	
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教育研究用機器備品	0	教育研究用機器備品	0	
図 書				
計	0			
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント	998			学内1人
ポスト・ドクター				
研究支援推進経費				
計	998			

別紙 目次

1. シンポジウム「ESD×地域創生-地域創生に果たす人づくりの役割-」
…別紙 1
2. 公開講演会「地域創生のための人づくり（地方創生カレッジ）と外部人材の活用（地域おこし協力隊）…別紙 2
3. 公開講演会「「緑のふるさと協力隊」から見る地域づくりと人づくり」…別紙 2
4. 公開講演会「韓国環境教育：三つの事例」…別紙 3
5. 公開講演会「「やねだん（柳谷集落）」の取り組みから見る地域創生と人づくり」…別紙 2
6. 東京芸術劇場×立教大学連携講座「池袋学」夏季特別講座「雑司が谷で「つながる」・「つなぐ」-ESDをキーワードとする地域づくりと人づくり」
…別紙 4
7. 公開講演会「水俣と福島の間。-何故、過去に学べないのか-」…別紙 5
8. ESD 研究連携に関する覚書締結自治体の合同研究会…別紙 6
9. 公開講演会「立教大学 ESD 研究所のこれまでの 10 年、これからの 10 年-ESD をめぐる国内外の動向を踏まえて-」…別紙 7
10. 「としまグリーンキッズプロジェクトーとしまの自然を歩こう・学ぼう・発信しようー」
…別紙 8
11. 国際シンポジウム「ESD による地域創生の可能性と今後の展開
Prospects and Ongoing Challenges of Regional Revitalization based on ESD-」…別紙 9
12. 公開講演会「アメリカ国立公園における環境教育-アメリカから見た日本の環境教育と相互連携の可能性-」…別紙 10
13. 2016 年度成果報告書雑司が谷で「つながる」・「つなぐ」-ESD をキーワードとする地域づくりと人づくりー（業績 R-1）…別紙 11
14. 立教大学 ESD 研究所と長崎県対馬市との ESD 研究連携に関する報告書（2016 年度）…

(＊業績 R-2) 別紙 12

15. ESD 地域創生拠点形成に関する研究 (2017 年度成果報告書) (業績 R-3) …別紙 13

16. ESD による地域創生の可能性と今後の展開(Prospects and Ongoing Challenges of Regional Revitalization Based on ESD) (業績 R-4) …別紙 14

17. としまグリーンキッズプロジェクト 2017 (業績 R-5) …別紙 15

Education for Sustainable Development : 持続可能な開発のための教育

ESD×地域創生

—地域創生に果たす人づくりの役割—

◇ 11:00-11:10 開会あいさつ

阿部 治 (立教大学社会学部教授、ESD研究所運営委員)

◇ 11:10-12:20 【第1部 基調講演】

「地元学に見る自分育て」

吉本 哲郎 (地元学ネットワーク主宰 from 水俣市)

[12:20-13:00 休憩]

◇ 13:00-16:20 【第2部 事例報告】

前田 剛 (対馬市しまづり戦略新政策推進課主任 from 対馬市)

阿部 裕志 (株式会社巡の環代表取締役 from 海士町)

及川 幸彦 (日本ユネスコ国内委員会委員 from 気仙沼市)

池田 満之 (岡山ユネスコ協会副会長 from 岡山市)

辻 英之 (NPO法人グリーンウッド自然体験教育センター代表理事 from 長野県泰阜村)

[16:20-16:30 休憩]

◇ 16:30-17:30 【第3部 パネルディスカッション】

※申込不要、入場無料

近年、各地で様々な「地方創生」の取り組みが行なわれているが、現行の「地方創生」では「人づくり」の重要性について語られることが少ない。本シンポジウムでは、内発的发展を志向した地域創生の手法として定着してきた地元学の視点からの講演、全国各地で展開されている行政・自然学校・学校教育・NPO・社会的企業等による持続可能な地域づくりの事例報告をふまえて、「ESDによる地域創生」の可能性と、その中における「人づくり」の意義について議論を深めたい。

島根県隠岐郡海士町

長崎県対馬市

宮城県気仙沼市

長野県下伊那郡
泰阜村

東京都豊島区

岡山県岡山市

熊本県水俣市

【日 時】 2016年3月5日(土)11時~17時30分 (開場10時30分)

【場 所】 立教大学 池袋キャンパス 5号館5122教室

(〒171-8501 東京都豊島区西池袋3-34-1/池袋駅西口から徒歩8分)

【主 催】 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「ESDによる地域創生の評価とESD地域創生拠点の形成に関する研究」(研究代表者・阿部治)

立教大学ESD研究所/立教大学ESD地域創生研究センター設置準備室

【問合せ先】 立教大学ESD研究所 esdrc@rikkyo.ac.jp tel: 03-3985-2686

Education for Sustainable Development : 持続可能な開発のための教育

ESD×地域創生 連続講演会

「地方創生のための人づくり（地方創生カレッジ）と

外部人材の活用（地域おこし協力隊）」

【日 時】 2016年6月21日（火）18:45～20:30

【場 所】 立教大学 池袋キャンパス 本館 1202教室

【講 師】 椎川 忍 氏（一般財団法人 地域活性化センター理事長）

人口減少や高齢化等の進行が著しい地方で、地域外の人材を受け入れ、地域協力活動を行い、定住・定着を図ることで、地域力の強化を図ることを目的として生まれたのが「地域おこし協力隊」である。本講演会では、この制度を総務省時代に立ち上げた椎川氏に、協力隊が発足した経緯やそこに込めた思い、現在までの評価、また政府による「地方創生」の現状などについてお話しいただく。

「〈緑のふるさと協力隊〉から見る地域づくりと人づくり」

【日 時】 2016年7月12日（火）18:45～21:00

【場 所】 立教大学 池袋キャンパス 本館 1202教室

【講 師】 新田 均 氏（特定非営利活動法人 地球緑化センター理事長）

「緑のふるさと協力隊」は、農山村再生を目的として1994年に設立された。この事業を通じて、これまでの22年間に、718名の若者を地域に派遣し、政府による「地域おこし協力隊」のモデルともなった。本講演会では「緑のふるさと協力隊」設立の中心的役割を担った新田氏に、結成から現在に至る流れ、その成果と課題、人づくりが地域創生に果たす役割についてお話しいただく。

「〈やねだん（柳谷集落）〉の取り組みから見る地域創生と人づくり」

【日 時】 2016年7月28日（木）18:30～20:40

【場 所】 立教大学 池袋キャンパス太刀川記念館3階 多目的ホール

【講 師】 豊重 哲郎 氏（鹿児島県鹿屋市串良町柳谷自治公民館長）

行政に頼らず住民で地域をつくる先駆的活動として国内外で高い評価を受けている、鹿児島県鹿屋市串良町柳谷地区。この運動を組織化し、人づくりのプロとして声価を高めてきた豊重氏から「やねだん」の取り組みを通じた地域創生と人づくりについてお話しいただく。

【主 催】 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「ESDによる地域創生の評価とESD地域創生拠点の形成に関する研究」（研究代表者・阿部治）
立教大学ESD研究所／立教大学ESD地域創生研究センター設置準備室

【問合せ先】 立教大学ESD研究所 esdrc@nikkyo.ac.jp tel : 03-3985-2686

Education for Sustainable Development : 持続可能な開発のための教育

立教大学ESD研究所主催講演会

韓国 の 環境教育

－ 三つの事例 －

【日時】 2016年7月13日（水） 18:30～20:00

【場所】 立教大学 太刀川記念館1階 第1・2会議室

【講師】 金 男洙（Kim Namsoo）氏



（Seoul National University Asian
Institute for Energy, Environment &
Sustainability Senior Research
Fellow／ESD研究所特任研究員）

【プロフィール】 ソウル大学校大学院環境教育学専攻で博士号取得。韓国環境教育センターの役員を務める。専門は「国連ESDのための10年（DESD）後のESD—日韓の事例比較研究」。主な論文に「環境教育的視座からの共生と環世界の世界理解」（『環境哲学』第16巻第1号、2013）、「ESD、学校と地域の協働における、日韓教員の意識と行動」（共著、『環境教育』第27巻第3号、韓国環境教育学会、2014）など。著書に『韓国におけるDESD』（共著、韓国ユネスコ委員会、2014）など。

＊ 申込不要、入場無料、逐次通訳あり（韓国語→日本語）

＊ 通訳：元 鍾彬 氏（学習院大学非常勤講師、ESD研究所研究員）

《次回講演会のご案内》「くやねだん（柳谷集落）」の取り組みから見る地域創生と人づくり」

【日 時】 2016年7月28日（木） 18:30～20:40（18:10開場）

【場 所】 立教大学 池袋キャンパス太刀川記念館3階 多目的ホール

【講 師】 豊重 哲郎 氏（鹿児島県鹿屋市串良町柳谷自治公民館長）

【主 催】 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「ESDによる地域創生の評価とESD地域創生拠点の形成に関する研究」（研究代表者・阿部治）／立教大学ESD研究所／立教大学ESD地域創生研究センター設置準備室

【問合せ先】 立教大学ESD研究所 esdrc@rikkyo.ac.jp tel: 03-3985-2686

池袋学

東京芸術劇場×立教大学 連携講座

申込方法

第1部・第2部は、東京芸術劇場HPおよび立教大学HP上の「お申込みフォーム」にてお申込み下さい。
 なお、第3部の「すすきみずく」制作ワークショップ（先着10名）に関しては、雑司が谷すすきみずく保存会（☎ 03- 3971 - 4383）にお申込み下さい。
 すすきみずく材料費として1,000円を頂戴します。
 第1部・第2部、第3部の上映会は入場無料です。

日 時：2016年8月1日（月）

場 所：立教大学 池袋キャンパス 7号館

題 目：雑司が谷で「つながる」・「つなぐ」

—ESDをキーワードとする地域づくりと人づくりへ—

池袋駅近くに位置し、雑司が谷霊園、法明寺、鬼子母神などの伝統的な文化、自然が残る雑司が谷。近年、地域住民が主体となって、地域の歴史・自然・文化を継承しながら、まちづくりを進めています。2014年には日本ユネスコ協会連盟の「プロジェクト未来遺産」として「「雑司が谷がやがや」プロジェクト～歴史と文化のまちづくり」（雑司が谷・歴史と文化のまちづくり懇談会）が登録認証を受けました。また2016年には、鬼子母神堂が国の重要文化財の答申を受けました。本企画では、研究者や学生、地元住民などによる雑司が谷に関する研究・学習・実践成果の発表、共有の場を設けます。従来個別に行なわれてきた活動を、ひとつにつなぐことで、雑司が谷を視座とする内発的・横断的な学びの促進、地域への誇りの醸成、域学連携の形成を図るとともに、ESD（Education for Sustainable Development：持続可能な開発のための教育）による地域づくりと人づくりの可能性と未来について議論を深めます。なお、かつて「雑司が谷」は現在の西池袋や南池袋をも包摂する広い地域を指しており、「池袋学」すなわち「雑司が谷学」ともいえます。今回の企画が、駅で東西に分かれた地域を“つなぐ”道筋を考える契機となれば幸いです。

【主催】立教大学、東京芸術劇場、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「ESDによる地域創生の評価とESD地域創生拠点の形成に関する研究」（研究代表者・阿部治）、立教大学ESD研究所、立教大学ESD地域創生研究センター設置準備室

【共催】豊島区、公益財団法人としま未来文化財団、NPO法人としまユネスコ協会、雑司が谷未来遺産推進協議会

【協力】NPO法人ゼファー池袋まちづくり、NPO法人としまNPO推進協議会、NPO法人「としまの記憶」をつなぐ会

問合せ先：立教大学ESD研究所（☎ 03-3985-2686 E-mail : esdrc@rikkyo.ac.jp）

講演会

今年には水俣病の公式確認から 60 年、そして福島第一原発事故から 5 年に当たります。2つの惨事に共通するのは、予兆があり、修正の機会も数多くあったのに、それを生かせないまま多数の命、豊かな自然と地域社会が失われたことです。産官学で守ろうとした産業自体も衰退しました。補償額、被害額が拡大し、国民負担も膨らみ続けています。

こうした事件が繰り返されたのは何故か。過去に学べない日本社会の構造は、どこに由来するのか。「日本という社会を下へ下へと掘り下げていったとき、そこに何かがあるか知る手段として工場を選んだ」という、岡本達明氏（元チッソ水俣工場第一組合委員長、著書に『水俣病の民衆史』全 6 巻他多数）の講演をもとに考えます。

2016.9.11 日
14:00 - 17:00

立教大学 池袋キャンパス
7号館 1階 7102 教室

東京都豊島区 西池袋 3丁目 34-1
池袋駅西口より徒歩約 7 分
資料代：500 円



共催 日本環境ジャーナリストの会
立教大学 ESD 研究所

文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「ESD による地域創生の評価と ESD 地域創生拠点の形成に関する研究」（研究代表者・阿部治）、立教大学 ESD 地域創生研究センター設置準備室

*ESD：持続可能な開発のための教育

水俣と福島の間。

何故、水俣に学べなかったのか

『水俣病の民衆史』著者・岡本達明氏に聞く

講演者 ● 岡本達明 元チッソ水俣工場第一組合委員長（著書：『水俣病の民衆史』全 6 巻他多数）

モデレーター ● 石井徹 朝日新聞編集委員

登壇者プロフィール

● 岡本達明（おかもと・たつあき）

1935 年東京生まれ。57 年、東大法学部卒業、新日本窒素肥料株式会社入社。70 年、チッソ水俣工場第一組合委員長。編著書「近代民衆の記録 7 漁民」、「聞書 水俣民衆史」、「水俣病の科学」。

● 石井徹（いしい・とおる）

朝日新聞編集委員（環境・エネルギー担当）1960 年東京生まれ。上智大学法学部卒業後、85 年に朝日新聞社入社。盛岡支局、東京本社社会部、青森総局長など経験。共著に「地球異変」「地球・環境元年宣言」「エコ・ウォーズ 低炭素社会への挑戦」。

□ 当日、岡本達明著『水俣病の民衆史』全 6 巻を展示し、割引販売の予約を受け付けます（書籍は後日発送となります）。

申込み方法：

下の QR コードからアクセス、または「日本環境ジャーナリストの会」のホームページからお申し込みください。
FAX の場合は、お名前・連絡先電話番号・メールアドレスを記載の上 03-5825-9737 までお送り下さい。

問い合わせ先：

地球・人間環境フォーラム TEL 03-5825-9735

※個人情報取扱について

この講演の参加のためにお預かりした個人情報は、当会主催の同様の講演会等の案内以外には使用せず、外部への共有もいたしません。



2017 年 1 月 31 日

ESD 研究連携に関する覚書締結自治体の合同研究会概要

日 程 : 2017 年 2 月 20 日 (月) 12 時～18 時 (予定)

場 所 : 立教大学 池袋キャンパス 12 号館地下 1 階 第一会議室

内 容 : 2016 年度に立教大学 ESD 研究所と ESD 研究連携に関する覚書を締結した 3 自治体 (長崎県対馬市、北海道羅臼町、静岡県西伊豆町／締結順) および ESD 研究所の研究プロジェクト「ESD による地域創生の評価と ESD 地域創生拠点の形成に関する研究」(文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業、研究代表者・阿部治、平成 27～31 年度) の合同研究会を実施し各自治体の地域創生に関する事例発表と討議等を行う。

参加者 : 平山俊章 (対馬市教育委員会学校教育課課長)
 浦谷哲治 (長崎県立対馬高等学校教諭 (ユネスコスクール担当))
 荒木静也 (対馬市しまづくり推進部次長)
 前田 剛 (対馬市しまづくり推進部市民協働・交通対策課主任)
 吉野 元 (一般社団法人 MIT 統括コーディネーター)
 銭本 慧 (合同会社フラットアワー代表)
 福田一輝 (羅臼町教育委員会学校教育課長補佐兼社会教育課長補佐)
 米屋 猛 (羅臼町企画振興課企画振興係係長)
 金澤裕司 (羅臼町教育委員会自然環境教育主幹)
 長島 司 (西伊豆町企画防災課企画調整係長)
 石川和磨 (西伊豆町環境福祉課福祉係)
 秋國裕太 (西伊豆町産業建設課建設係)
 上沼昭彦 (飯田市役所総合政策部企画課大学・三遠南信連携係係長)
 阿部 治 (立教大学社会学部・同研究科・教授、ESD 研究所長)
 上田 信 (同文学部・同研究科・教授、ESD 研究所副所長)
 野田研一 (同名誉教授、ESD 研究所運営委員)
 朝岡幸彦 (東京農工大学農学研究院教授)
 小玉敏也 (麻布大学生命・環境科学部教職学芸員課程教授)
 中口毅博 (芝浦工業大学システム工学部環境システム学科教授)
 井出万秀 (立教大学文学部・同研究科教授) ※懇親会のみ参加
 小幡理美 (同 ESD 研究所 事務研究補佐員)
 笹川貴吏子 (同大学院社会学研究科博士課程後期課程)
 戸張雅登 (同大学院異文化コミュニケーション研究科博士課程後期課程)
 松岡宏明 (同大学院異文化コミュニケーション研究科博士課程前期課程)
 後藤隆基 (同社会学部教育研究コーディネーター)

立教大学 ESD 研究所設立 10 周年記念講演会

立教大学 ESD 研究所の これまでの 10 年、 これからの 10 年

—ESD をめぐる国内外の動向を踏まえて—



designed by freepik.com

立教大学 ESD 研究所は、前身である立教大学 ESD 研究センター（2007～2011 年度）が日本で初の ESD（Education for Sustainable Development: 持続可能な開発のための教育）研究機関として設立されてから、今年で 10 周年を迎える。本講演会では、ESD 研究所（旧・ESD 研究センター）の 10 年間の活動の軌跡をたどりながら、国内外における ESD の動向や、現在研究所が取り組んでいる〈ESD による地域創生〉の研究プロジェクト等について紹介し、今後の活動を展望する。

日 時

2017 年 6 月 17 日（土）13:00～14:30

会 場

立教大学池袋キャンパス 12 号館地下 1 階第 1・2 会議室

登壇者

阿部 治（立教大学 ESD 研究所所長、社会学部・同研究科教授）



1955 年、新潟県生まれ。立教大学社会学部・同研究科教授。同大学 ESD 研究所所長。専門は環境教育/ESD。筑波大学、埼玉大学などを経て 2002 年から現職。現在、ESD 活動支援センターセンター長などを務める。環境教育・ESD のパイオニアとして国内外における研究実践に関わっている。主な著書に『ESD の地域創生力—持続可能な社会づくり・人づくり 9 つの実践』（合同出版、2017）、『原発事故を子どもたちにどう伝えるか—ESD を通じた学び』（合同出版、2015）など。2017 年に平成 29 年度環境保全功労者表彰（環境省）、2015 年に第 3 回 TEMM Environment Award を受賞。

主催：立教大学 ESD 研究所（esdrc@rikkyo.ac.jp、03-3985-2686）

文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「ESD による地域創生の評価と ESD 地域創生拠点の形成に関する研究」（研究代表者・阿部治）、*ESD 地域創生研究センター設置準備室

*ESD 地域創生研究センター設置準備室：「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に基づき、ESD 研究所内に設置されるものである。



としまグリーンキッズプロジェクト

としまの自然を 歩こう・学ぼう・発信しよう

小学生（3年生以上）大募集！

① 8/22（火）

9:30～11:00

◎子どもスキップ池袋第三

豊島の自然を 《かんさつ》しよう

●動物はかせの五箇公一さんから、東京でがんばって生きている動物や虫たちのお話を聞きます。また、五箇さん流スケッチのかき方を学び、じっくり生きものをみながらスケッチをします。



先生：五箇 公一（ごか こういち）さん

「都会にも虫たちはたくましく生きてます。そのたくましさから自然の力を感じ取ってください。」

② 8/23（水）

9:30～15:30

◎みらい館大明

豊島の自然を 《地図》にしよう

●自然や生きものを守る仕事をしている吉田峰規さんから、動物や植物のみかた、写真のとり方を学び、まちを歩き、「としまのいきものマップ」をつくりまします。



先生：吉田 峰規（よしだ みねき）さん

「豊島区のみどりの中で暮らしている生きものをいっしょに探しに行こう！何種類の生きものに会えるかな！？」

③ 8/24（木）

9:30～15:30

◎子どもスキップ池袋第三

豊島の自然を 《ひょうげん》しよう

●地元の案内人、石森さんと一緒に、池袋駅前の緑化ツアーをします。午後は、プロのクリエイターの広安さん、山田さんに教わってiPadを使った映像づくりにチャレンジ。



まちの案内人：石森 室（いしもりむろ）さん
先生：広安正敬（ひろやすまさたか）さん
山田晋也（やまだしんや）さん

「この日体験することなどを撮影し、としまの魅力をみんなで映像にしてみよう」

④ 9/2（土）

10:30～14:00

◎子どもスキップ池袋第三

豊島の自然を 《はっしん》しよう

●池三子どもスキップが、おしゃれなカフェに早変わり！お茶やおかしを楽しみながら、3日間で学んだことを、まちの人たちが集まる風土かふえて発表します。



*発表は10:30～11:00ごろを予定。

*4日間がんばったみんなには、すてきなプレゼントがあるかも！

◆参加費：無料、昼食代（23日、24日は1食500円程度を持参）

◆対象：4回のイベント全てに参加できる小学生（3年生以上）20名（先着順）

◆申し込み：https://www.facebook.com/rikkyoesd2012/ の申込みフォームからお申し込み下さい

◆問合せ先：立教大学ESD研究所 esdrc@rikkyo.ac.jp Tel: 03-3985-4394 または 03-3985-2686

◇主催：としまプロジェクト運営協議会、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「ESDによる地域創生の評価とESD地域創生拠点の形成に関する研究」（研究代表者・阿部治）、立教大学ESD研究所、立教大学ESD地域創生研究センター設置事業

◇共催：西池袋南町会、マデックス（株）、NPO法人としまNPO推進協議会、NPO法人ゼファー池袋まちづくり、NPO風土-Kazetsuchi-

◇協力：子どもスキップ池袋第三

◇後援：豊島区

【立教大学 ESD 研究所 国際シンポジウム】

ESD による地域創生の可能性と今後の展開

- Prospects and ongoing challenges of regional revitalization based on ESD-

【日時】2017 年 11 月 11 日（土）13:00-17:45 & 11 月 12 日（日）10:00-15:15

【会場】立教大学池袋キャンパス 太刀川記念館 3 階 多目的ホール

日本では、ESD 研究所と ESD 研究連携に関する覚書締結自治体等をはじめとして、ESD による多様な地域づくり（地域創生）の取組が始まっており、その成果とともに地域特有の課題を抱えているのが現状です。本シンポジウムでは、日本の ESD による地域創生の取組の成果と課題を紹介し、世界各国で行なわれている多様な事例報告をふまえて、ESD による地域創生の在り方についての共通理解の促進や今後の可能性について議論を深めます。同時通訳あり（日本語⇄英語）。各日定員 100 名程度。

◆1日目 11月11日（土）13:00-17:45（開場 12:30）

13:00-13:15 開会のあいさつ

13:15-13:45 立教大学 ESD 研究所による ESD に基づく地域創生プロジェクト：阿部 治（立教大学 ESD 研究所所長）

13:45-15:05 日本の ESD に基づく地域創生の取り組み

13:45-14:25 地方自治体の事例①長崎県対馬市：前田 剛（対馬市しまづくり推進本部市民協働・交通対策課主任）

14:25-15:05 地方自治体の事例②長野県泰阜村：辻 英之（NPO 法人グリーンウッド自然体験教育センター代表理事）

15:05-15:15 休憩

15:15-17:45 アジアの ESD に基づく地域創生の取り組み

15:15-16:05 韓国の事例：リー・ソンキョ（清州教育大学校教授）

16:05-16:55 インドの事例：マダビ・ジョシ（環境教育センター 上級プログラムディレクター）

16:55-17:45 台湾の事例：ワン・チャオメイ（財団法人観樹教育基金 環境教育部長）

17:45- 閉会のあいさつ

◆2日目 11月12日（日）10:00-15:15（開場 9:30）

10:00-10:05 開会のあいさつ

10:05-10:20 1 日目の総括：阿部 治（立教大学 ESD 研究所所長）

10:20-14:05 ヨーロッパの ESD に基づく地域創生の取り組み

10:20-11:10 スウェーデンの事例：レイフ・オストマン（ウプサラ大学教授）

11:10-12:00 イギリスの事例：香川文代（NGO サステナビリティ・フロンティアーズ リサーチディレクター）

12:00-12:50 ドイツの事例：トーマス・ホフマン（カールスルーエ教員養成校 地理学部長）

12:50-13:50 休憩

13:50-15:15 パネルディスカッション： ESD に基づく地域創生の可能性と今後の展開

15:15 閉会のあいさつ

【参加申込み】メールにて、件名に「ESD 国際シンポジウム参加申し込み」と記載し、次の項目を明記の上、下記の申込先にご連絡ください。

氏名、所属、メールアドレス、参加希望日（11 月 11 日（土）・12 日（日）の両日またはいずれか）※参加費無料

申込・お問合せ先：立教大学 ESD 研究所

〒171-8501 東京都豊島区西池袋 3-34-1 / TEL 03-3985-4394 / E-mail: esdrc@rikkyo.ac.jp

主催：文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「ESD による地域創生の評価と ESD 地域創生拠点の形成に関する研究」（研究代表者：阿部治）、
立教大学 ESD 研究所、立教大学 ESD 地域創生研究センター設置準備室
後援：ESD 活動支援センター、特定非営利活動法人 持続可能な開発のための教育推進会議（ESD-J）

アメリカ国立公園における 環境教育ーアメリカから見た日本 の環境教育と相互連携の可能性ー

アメリカ国立公園局と提携する最大の環境教育団体であるネイチャーブリッジ（アメリカ国立公園局協賛NPO環境教育団体）。その使命のひとつに掲げられる「持続可能な共生社会をつくる責任ある行動をとれる人材を育てる」とは、どのようなことなのか。アメリカが直面する最大の課題である白人至上主義を乗り越え、多文化を尊重する教育としての〈多文化自然教育〉などを通して、アメリカと日本の環境教育の連携の可能性についてお話しいただく。

〔日時〕

2017年12月19日（火）
18時30分～20時30分

〔会場〕

立教大学 池袋キャンパス
12号館地下1階 第3・4会議室

〔講師〕

会田 民穂 氏（映画監督、ネイチャーブリッジ機会均等推進責任者）

【主催】 立教大学ESD研究所、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「ESDによる地域創生の評価とESD地域創生拠点の形成に関する研究」(研究代表者・阿部治)、立教大学ESD地域創生研究センター設置準備室
【問合せ先】 esdro@rikkyo.ac.jp tel:03-3985-2686 ※入場無料・事前申込不要

2016 年度成果報告書

雑司が谷で「つながる」・「つなぐ」

—ESD をキーワードとする地域づくりと人づくり—

文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
「ESD による地域創生の評価と ESD 地域創生拠点の形成に関する研究」
(平成 27～31 年度 研究代表者・阿部治)

2017 年 3 月

目 次

巻頭言／阿部 治 …… 3

目 次 …… 4

概 要 …… 5

シンポジウム「雑司が谷を中心とした地域づくり——大人と子どもと」 …… 7

雑司が谷における地域活動——雑司が谷七福神を中心に／渡邊隆男 …… 8

「としま案内人雑司ヶ谷」について／小池陸子 …… 11

雑司が谷を中心とした学習活動／中村雅子 …… 13

雑司が谷を中心とした地域づくり——大人と子どもと学生と／葉袋奈美子 …… 17

雑司が谷を中心とした地域づくり——大人と子どもの協働について考える

三田一則、平井憲太郎、渡邊隆男、小池陸子、中村雅子、葉袋奈美子、阿部 治 …… 22

参加型プログラム …… 31

ポスター展示報告／戸張雅登 …… 32

立教大学経済学部大山利男ゼミ …… 35

日本女子大学葉袋奈美子ゼミ …… 37

南池袋小学校 …… 39

上映『『くらしの記憶』から探る雑司が谷』報告／山田智稔 …… 42

「すすきみみずく」制作ワークショップ

「すすきみみずく」制作体験記／泉屋咲月 …… 45

「すすきみみずく」づくりに参加して／笹川貴吏子 …… 46

レポート：雑司が谷を知る・学ぶ・体験する／蒔谷雄輝 …… 48

立教大学 ESD 研究所と長崎県対馬市との
ESD 研究連携に関する報告書
(2016 年度)

文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
「ESD による地域創生の評価と ESD 地域創生拠点の形成に関する研究」
(研究代表者・阿部治 平成 27～31 年度)

2017 年 3 月

目 次

巻頭言／阿部 治	3
目次	4

第 1 部 対馬市との覚書締結 調印式・記念講演会

概要	7
調印式	
覚書の概要について／阿部 治	8
挨拶／吉岡知哉	10
挨拶／比田勝尚喜	13
記念講演会	
なぜ ESD が地域創生に求められるのか／阿部 治	15
対馬市における地方創生と人づくり／比田勝尚喜	21
対談：ESD による地域創生／比田勝尚喜×阿部 治	26
講演会レポート／笹川貴吏子	34

第 2 部 対馬でのアクション・リサーチ

対馬アクション・リサーチ合宿の目的／阿部 治	38
対馬アクション・リサーチ旅程	39
対馬の伝統文化を守り続ける学校と子どもたち／加藤美帆	41
阿連小学校閉校による児童・地域住民への影響	
——伝統文化の視点から／落合志保	44
対馬の学校教育がめざすもの／丸山由希子	49
豊集落ツアー／山口恭平	54
対馬における合同会社フラットアワーの起業からみる起業家誘致の意義／遠藤みどり	61
一般社団法人 MIT の民泊推進政策と今後の課題／望月玖瑠実	67
大学生のための ESD／落合志保	72

第 3 部 対馬学フォーラム 2016 への参加

対馬学フォーラム 2016 概要	76
地域における「第 3 の学びの場」の役割とその意義	
——対馬市こども未来塾での学生実習を通じて／笹川貴吏子	79
小学校統廃合によって生じる児童・地域の変化	
——対馬市阿連小を事例として／落合志保	85
対馬学フォーラム 2016 と持続可能な社会実現研究会に関する報告／鈴木奈美	95
ESD 研究連携への期待——ESD は地方創生に貢献しうるのか／前田 剛	101

ESD 地域創生拠点形成に関する研究 (2017 年度成果報告書)

文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
「ESD による地域創生の評価と ESD 地域創生拠点の形成に関する研究」
(研究代表者・阿部治 平成 27～31 年度)

2018 年 3 月

目次

総論言／阿部 浩	…… 3
目次	…… 4

第1章 長崎県対馬市 …… 7

1. 学生によるアクショナリサーチ	…… 9
対馬アクショナリサーチ会館の目的／阿部 浩	…… 10
対馬アクショナリサーチ旅程	…… 11
豊小学校における総合的な学習／佐藤 雄太	…… 12
阿波小学校閉校が及ぼす地域住民への影響／松岡 信吾	…… 20
対馬における学校統廃合／岩田 耕平	…… 25
2. 写真ワークショップと地域創生	…… 29
対馬市における写真ワークショップと地域創生／野田 研一	…… 30
写真ワークショップの中での学び／佐川 貴吏子	…… 32
見馴れた世界を「旅」すること——ワークショップを終えて／野田 研一	…… 38
3. 対馬学フォーラム2017	…… 45
対馬学フォーラム概要／佐川 貴吏子	…… 46
対馬学フォーラム2017に関する報告／佐川 貴吏子	…… 48
対馬における民泊の果たす役割と可能性／丸山 由希子・望月 弘輝実	…… 52
写真ワークショップと地域創生／野田 研一・宮嶋 辰彦・佐川 貴吏子	…… 54
4. 卒業論文（抄）	…… 57
グリーン・ツーリズムによる地域資源の活用について ～対馬での民泊を例として～／丸山 由希子	…… 58
対馬市民の「誇り」は移住推進政策によって取り戻せるのか／望月 弘輝実	…… 65
5. 小学校との連携プログラム	…… 73
立教大学と対馬市とが進めるESD教育プログラム開発のコーディネート／吉野 元	…… 74
6. 成果と展望	…… 86
多様なESDの実践を通じての気づき／前田 剛	…… 86

第2章 北海道羅臼町 …… 95

1. 覚書締結記念講演（抄）	…… 97
羅臼町と立教大学ESD研究所の連携による地域創生の可能性／阿部 浩	…… 98

2. 学生によるアクショナリサーチ …… 103

阿部浩と2017年夏合宿（羅臼町）について／栗村 智	…… 104
羅臼高校と北方領土問題／鈴木 奈美	…… 107

3. 羅臼からの声 …… 111

挨拶／栗村 智	…… 112
羅臼町のESD推進と地域連携の取り組み／山口 登	…… 113
羅臼町の地域創生と防災学／金澤 裕司	…… 115

第3章 静岡県西伊豆町 …… 119

西伊豆町におけるESDの取り組み／長嶋 司	…… 120
西伊豆町における地域創生拠点形成事業の取り組み／上田 信	…… 128

第4章 長野県飯田市 …… 131

長野県飯田市との連携協定の締結による研究活動報告／小三敏也・朝岡幸彦	…… 132
------------------------------------	--------

立教大学 ESD 研究所 国際シンポジウム
Education for Sustainable Development (ESD) Research Center,
Rikkyo University International Symposium

ESD による 地域創生の可能性と 今後の展開

Prospects and Ongoing Challenges of
Regional Revitalization Based on ESD

▶ 2017 年 11 月 11 日 (土) – 12 日 (日)

November 11(Sat) – 12(Sun), 2017

▶ 立教大学 池袋キャンパス太刀川記念館

Rikkyo University, Ikebukuro Campus Tachikawa Hall

主催：文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
「ESD による地域創生の評価と ESD 地域創生拠点の形成に関する研究」(研究代表者・阿部治)
立教大学 ESD 研究所、立教大学 ESD 地域創生研究センター設置準備室

後援：ESD 活動支援センター
特定非営利活動法人持続可能な開発のための教育推進会議 (ESD-J)

CONTENTS

-立教大学 ESD 研究所 国際シンポジウム -ESD による地域創生の可能性と今後の展開-

02-03 立教大学 ESD 研究所所長ご挨拶

Welcome Message from Director, Education for Sustainable Development Research Center (ESDRC), Rikkyo University

04-05 プログラム

Program

06-90 発表内容

Presentation Report

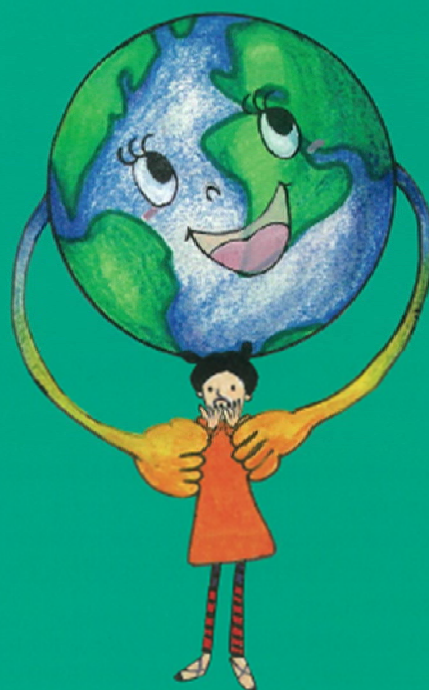
1. ESD の地域創生力-持続可能な地域をつくる人を育てる-/ 阿部 治 (Osamu Abe)
Local Revitalization with ESD -Making Human Resources Development for Sustainable Areas
2. 対馬における ESD による地域創生/前田 剛 (Tsuyoshi Maeda)
Regional Revitalization by ESD on Tsushima Isl.
3. 長野県泰阜村:「ESD×地域づくり」の素敵な未来/辻 英之 (Hideyuki Tsuji)
Yasuoka Village, Nagano Prefecture: "ESD × Regional Creation" for a Delightful Tomorrow
4. 韓国における ESD に基づく地域創生の成果/リー・ソンギョ (Sun-Kyung Lee)
Efforts of Regional Revitalization Based on ESD in Korea
5. 生物多様性による農村生活の再生-インドの事例/マダビ・ジョシ (Madhavi Joshi)
Biodiversity Based Revitalization of Rural Livelihoods and Beyond - A Case from India
6. 台湾雲林県口湖郷チェンロン村におけるコミュニティエンパワーメント実施計画/
ワン・チャオメイ (Chao-Mei Wang)
An Action Plan for Community Empowerment in Chenglong Village, Kouhu Township, Yunlin County, Taiwan
7. ESD を通じた地域創生の成果と課題/レイフ・オストマン (Leif Östman)
Efforts and Challenges of Regional Revitalization through ESD
8. 持続可能性教育を通じての地域作り-英国における取り組みからの考察-
香川 文代 (Fumiyo Kagawa)
'Regional Revitalization' through Sustainability Education: Insights from the UK Experience
9. ESD に基づく地域創生の成果:ユネスコ生物圏保存地域
-シュヴェービッシャー・アルプを事例に-/トーマス・ホフマン (Thomas Hoffmann)
Efforts of Regional Revitalization based on ESD: The Swabian Alb Biosphere Reserve

91-99 パネルディスカッション

Panel Discussion

としまグリーンキッズ プロジェクト 2017

ーとしまの自然を歩こう・学ぼう・発信しようー



連続環境学習講座

としまグリーンキッズプロジェクト

ーとしまの自然を歩こう・学ぼう・発信しようー

日 時: 2017 年 8 月 22 日 (火) 9:30 ~ 11:00
 8 月 23 日 (水) 9:30 ~ 15:30
 8 月 24 日 (木) 9:30 ~ 15:30
 9 月 2 日 (土) 10:30 ~ 14:00
 場 所: 子どもスキップ池袋第三、みらい館大明

主 催: としまちプロジェクト運営協議会、文部科学省
 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「ESD
 による地域創生の評価と ESD 地域創生拠点
 の形成に関する研究」(研究代表者・阿部治)、
 立教大学 ESD 研究所、立教大学 ESD 地域創
 生研究センター設置準備室

共 催: 西池袋南町会、マテックス(株)、NPO 法人
 としま NPO 推進協議会、NPO 法人ゼファー
 池袋まちづくり、NPO 風土 -Kazetsuchi-

協 力: 子どもスキップ池袋第三

後 援: 豊島区